

Beyond 5G基金の運用を踏まえた 社会実装・海外展開に向けた 今後の推進方策

革新的情報通信技術プロジェクトWG 構成員

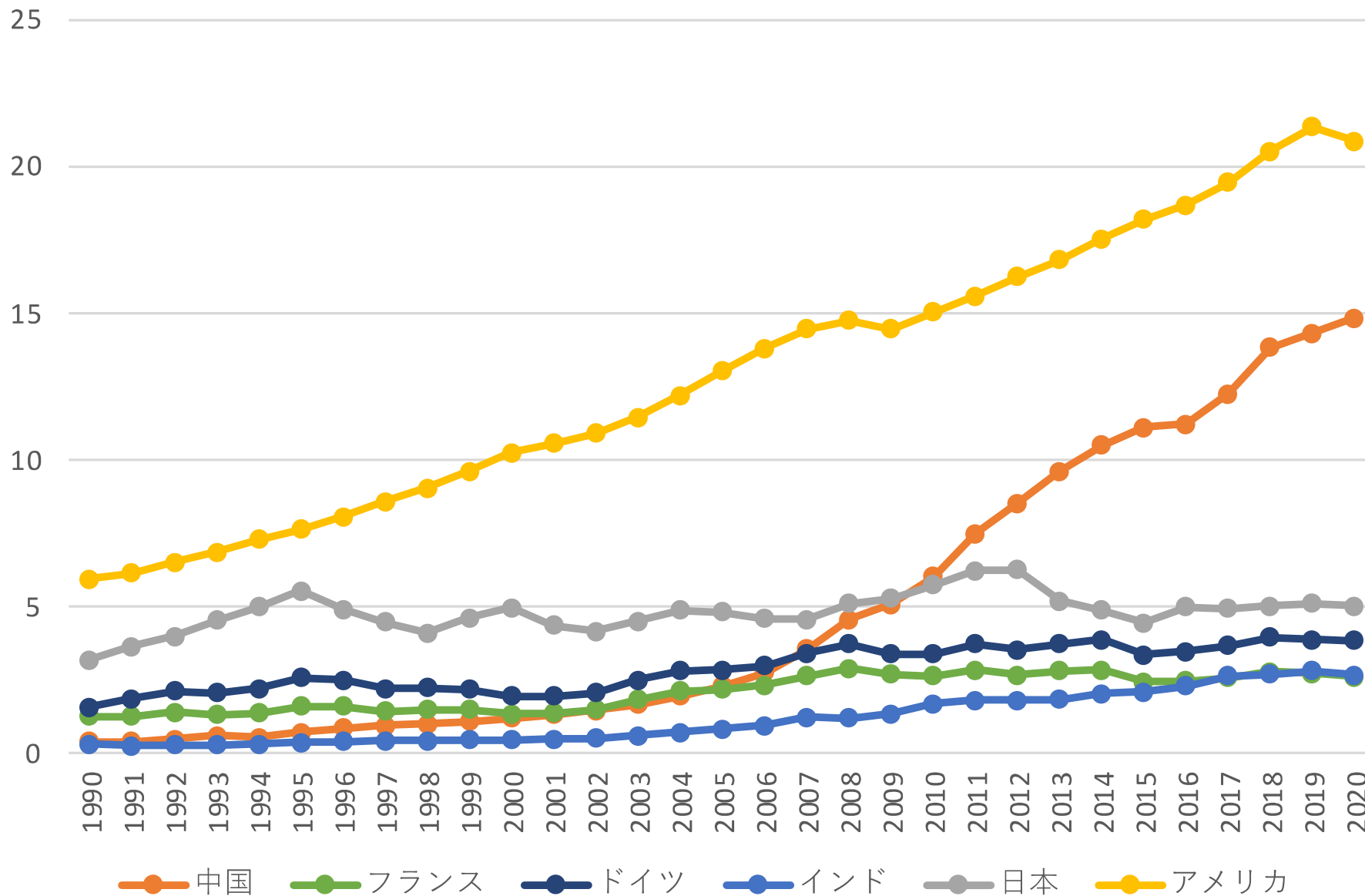
NICT革新的情報通信技術Beyond 5G(6G)基金事業 外部構成員

筑波大学ビジネスサイエンス系 教授

立本 博文

Beyond 5G基金事業の背景にある問題意識（立本の理解）～各国のGDP成長と日本経済の停滞

(兆ドル)



基金における支援対象プロジェクト選定に当たっての基本的な考え方とプロセス

選定基準 ～「事業面からの適切な評価の在り方等について」のポイント～

1. 市場機会を認識しているか？

ニーズの把握/技術開発が目的化していないか

2. 事業化をみすえて競争優位性の構築をしているか？

競合の把握/オープン領域（協調）とクローズ領域（競争）

3. 経営のコミットメントがあるか？

様々なリスク/探索と試行錯誤/リーダーシップ

プロセス

「予備調査」の実施

- ✓ 具体的な事業アイデアを事前に把握・理解
- ✓ 事業目的に相応しくない提案の前捌き
- ✓ 本公募に向けた改善提案
(対話を通じた「磨き上げ」)



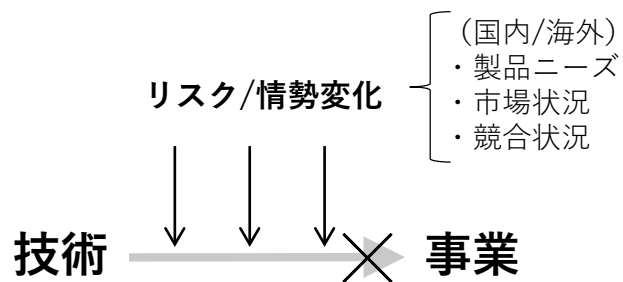
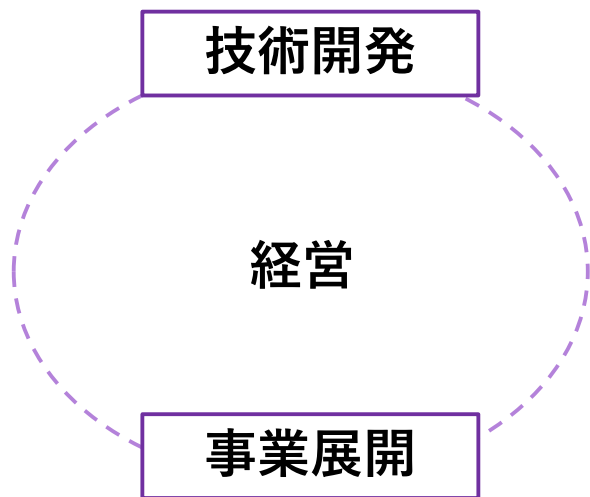
本公募・審査を経て採択決定

- ✓ 一定の理解を前提とした効率的な審査
(新規応募は、一から審査)
- ✓ 採択可否・条件付・補助率査定によるメッセージ

問題意識：開発した技術を事業化につなげるための体制の重要性

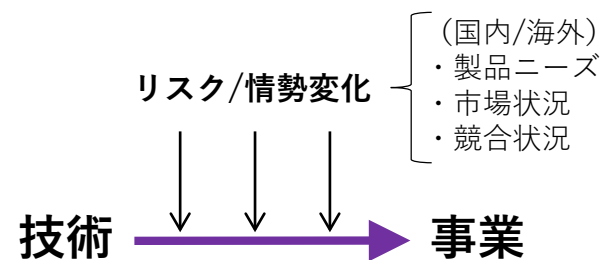
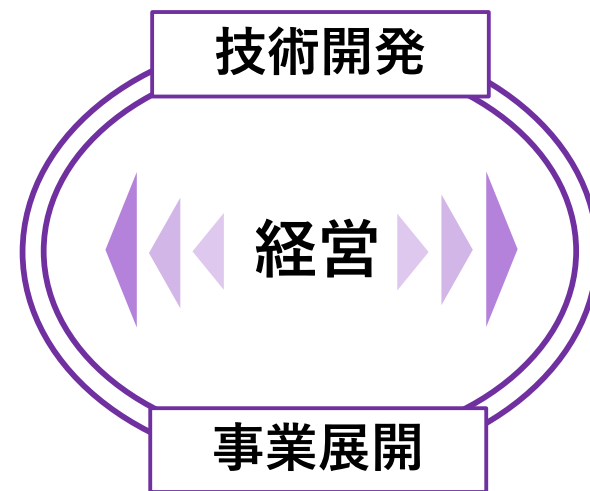
今まで

技術と事業をつなぐ力が弱い



これから

技術と事業をつなぐ力が強い



基金事業の運用を通じて、情報通信産業における経営体制強化に繋げることを期待

Beyond 5G研究開発支援の変遷

従来

- ✓ 要素技術開発が目的
- ✓ 100%委託が中心

国費100%支援を前提にしたプロジェクト
形成になりがち

(練度を高めた方が成功率が上がるプロジェクトでも
資金獲得が目的になりがち)

新基金

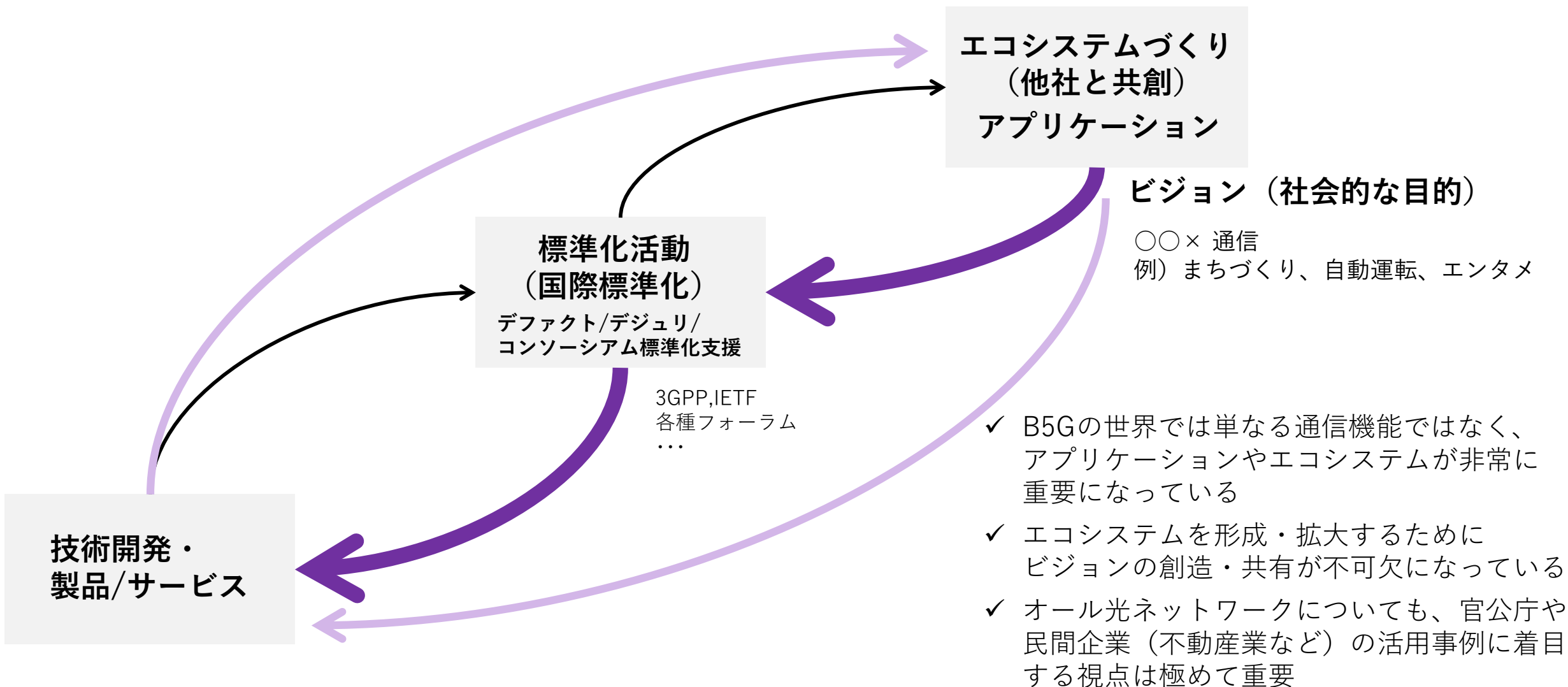
- ✓ 事業展開支援が目的
- ✓ 1/2助成が中心
- ※民間企業のやる気のある
取組みに対する後押し

開発主体が事業化まで責任をもち、
練度が低いプロジェクトでも
時間をかけた対話により成功度が高くなる

(マッチングファンド・加速的助成)

標準化活動とエコシステム作りの重要性

近年では、技術開発と標準化活動・エコシステムづくりが**同時並行**している点に留意



事業計画に必要な要素

社会実装・事業への道筋の明確化

研究開発のための研究開発を防止（手段の目的化の防止）・R&D部と事業部の連携

市場状況の把握の重要性の明確化

市場ニーズの把握、チャネル構築の重要性、競合意識により、ひとりよがりの計画を回避

経営のコミットメントの明確化

試行錯誤の許容・探索の許容・ピボットの許容

外部とのインタラクションによる磨き上げ



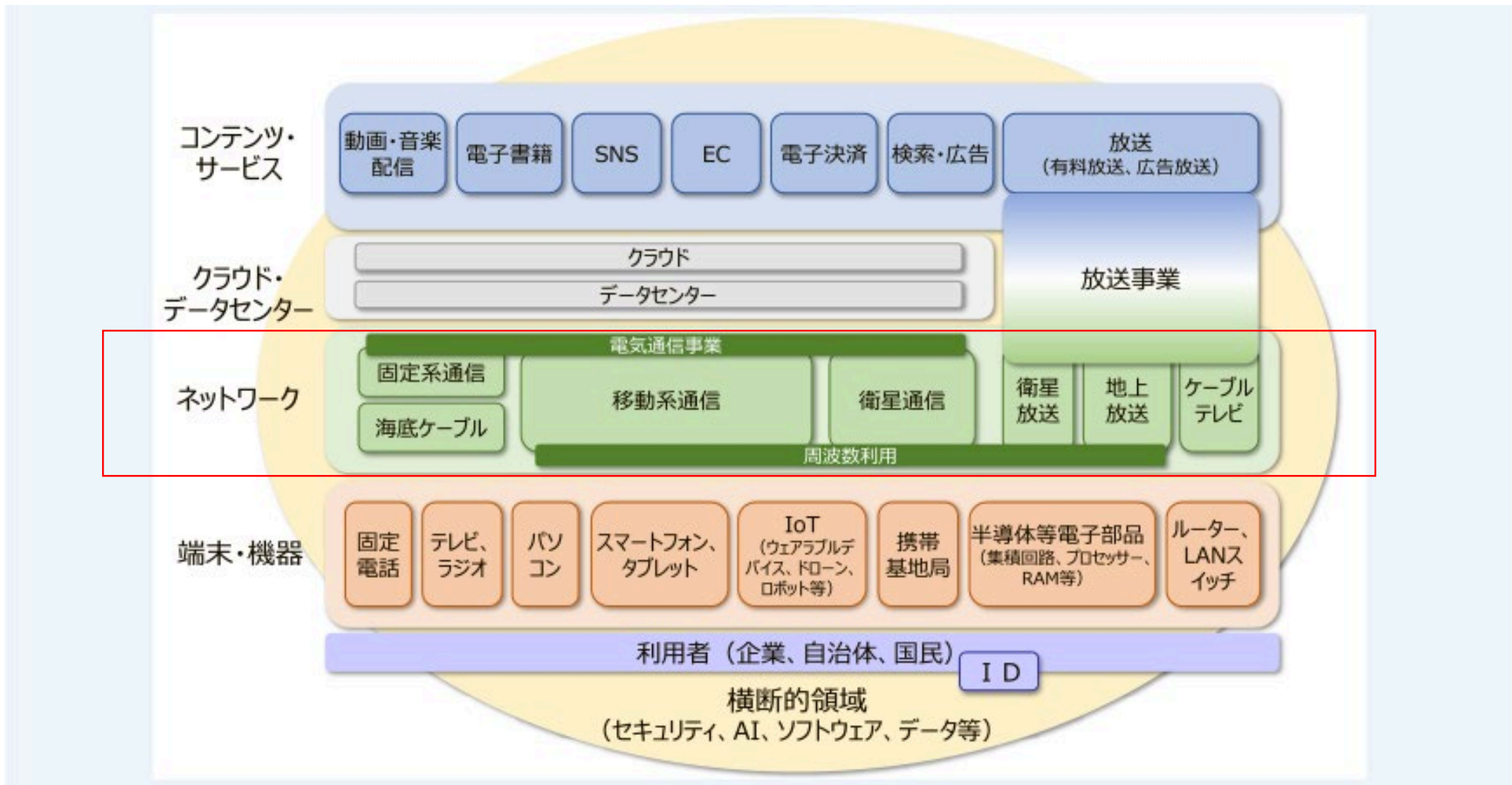
外部（審査員、顧客ニーズ、グローバルな市場トレンドなど）との対話により骨太のストーリーを構築

プロジェクトの位置づけの明確化・骨太のビジョンの形成に貢献

▶ 基金の予備調査での指摘・議論を受けて、本公募時にはストーリーが明確化された事例あり

エコシステムの的な視点の重要性の拡大

通信産業で競争力を得るためにはエコシステム全体を俯瞰的に見る必要がある



海外展開にあたっての留意点

1. 急速なマーケット変化への対応

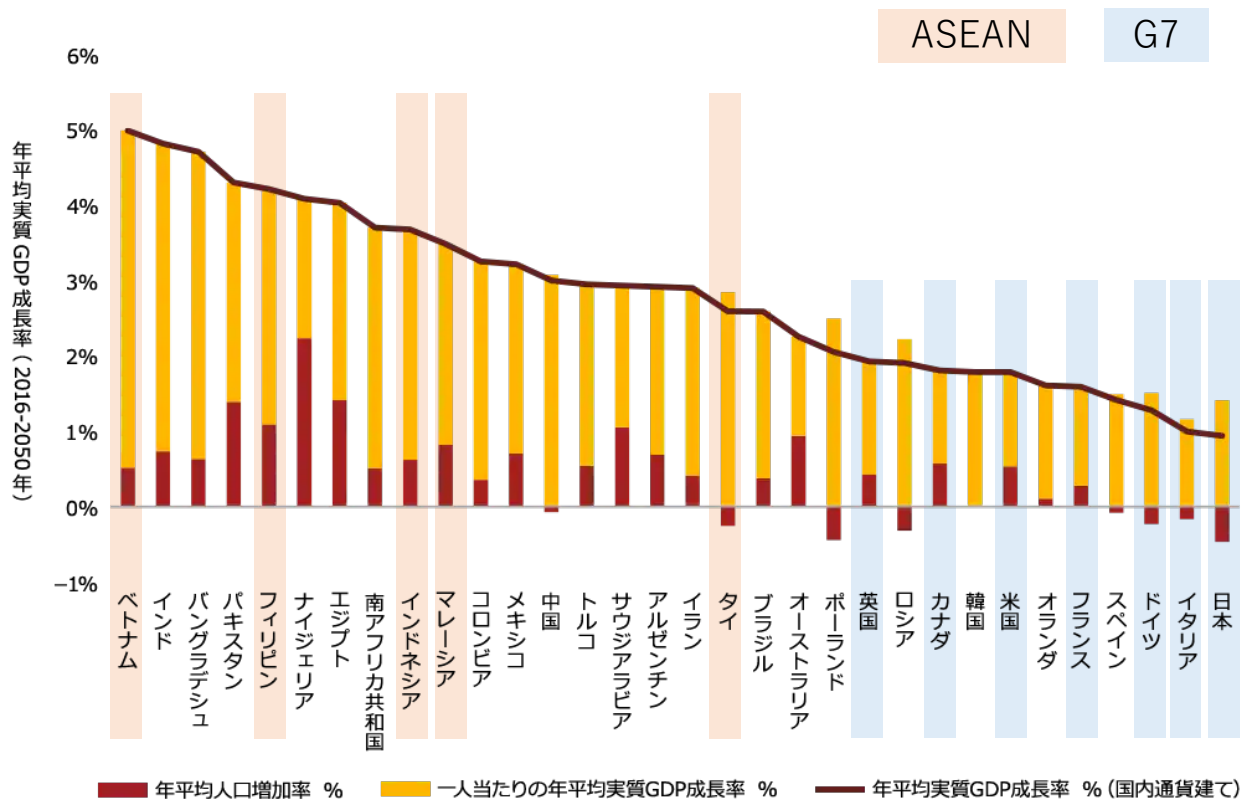
- ✓ 国際市場の競争環境は厳しく複雑であり、変化も急激。
- ✓ 現地対応も含めた分厚い情報収集とその分析、それに基づく慎重又は大胆な戦略、また臨機応変・柔軟な対応力が必要

2. 将来的なマーケット規模の意識

- ✓ 目先の利益を上げるため、まずは日本や先進国を重視したくなる事情は理解
- ✓ 他方、中長期的な成長（例：2030年）のためには潜在的なマーケット規模に立脚した展開計画が不可欠

3. マーケットの特性（受容性）

- ✓ これから経済成長する国・地域は経済発展・ライフスタイル向上・新たな社会課題解決のために、様々なキャッチアップのニーズあり
- ✓ 日本風のライフスタイルやビジネスモデルをこうした国・地域と共有するために、標準化は非常に重要



事業者

1. 研究開発が自己目的化しないように。開発した技術が事業につながるものが最重要
2. 様々なリスクを念頭に体制を構築。とくに経営のコミットメントを重視。
3. ひとりよがり×。骨太のストーリー構築がステークホルダーの巻き込みに繋がる

政策当局

1. 日本の経済成長を再活性化する重要な政策として認識
2. 対話プロセスを通じて、適切なシグナルを発信
3. 日本のライフスタイルを世界に広げる、という長期的な視点

事業者と政策当局

1. 対話を通じて、より骨太・柔軟・現実的な計画の構築とプロジェクト実施
(選定基準とプロセス)
2. グローバル市場を考慮し、ビジョンの普及/エコシステムづくりを官民で行う必要性
(官民それぞれ協力してやる必要がある)